

平成25年2月度定例観察会報告書

六甲山自然案内人の会

実施日：平成25年2月9日（土）

天候：晴れ時々曇り

担当班：4班

テーマ：植物の冬芽と野鳥の観察

参加人員：ビジター22名 会員45名 合計67名

コース：神戸市立森林植物園 園内

配布資料：野鳥チェックリスト、冬芽クイズ「私はダレでしょう？」、冬芽観察、園内説明資料

タイムスケジュール

10：30 開会挨拶 オリエンテーション

10：40 北園 萩の小径で観察開始

11：30 多目的広場に移動 野鳥の観察

12：00 休憩所「ル・ピック」で昼食

12：30 南園で観察開始

13：15 天津の森

14：00 長谷池

14：30 ウサギの国

15：00 さくら園

15：30 森林展示館前

15：40 解散

概要：

10時30分予定通り開始し「オオマシコ」の現れる萩の径へ移動。ビジターさんと、会員とにグループ分けし、日本野鳥の会会員や森林公園のボランティアガイドなどベテランの当会メンバー達を中心に新入会員も加わって幅の広い解説を行いました。

途中プラタナスの冬芽の観察（葉柄内芽）、ハギの説明（名前の由来、茎の利用、おはぎと牡丹餅の違いなど）、残念ながらオオマシコは現れませんでした。美しい羽色になるには数年かかりそこまで生き残るのはほんの一部であることなど興味深い話を聴くことができました。シロハラ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、ヤマガラなど確認。

11時30分に多目的広場に移動、ツグミ、シジュウカラ、昼食会場へ向かう途中一部の方はベニマシコに遭遇。

午後は冬芽を中心に観察するため会員対応に森林インストラクターの当会メンバーにも応援を依頼。先ず手始めにシモバシラ（シソ科の植物）、当日は雪がちらつくほど冷え込んでいたため昼過ぎでも残っていて見ることが出来ました。アジサイの冬芽（裸芽）、イロハモミジとオオモミジの違い、ビジターさんには午前同様フィールドスコープを担いだメンバーが同行し冬芽の観察をしながら野鳥が現れれば説明をするという楽しくも忙しい内容となりました。

フィールドスコープは冬芽の観察にも威力を発揮し、ホオなどの手の届かない高木の冬芽を詳細に見ることが出来ました。

中国系の植物が多い「天津の森」ではソシンロウバイ、ロウバイ、シナマンサクなどの花が咲き冬の園内では珍しく明るい彩に包まれ、ナンキンハゼの実にはシジュウカラの群れが来て賑やかでした。

長谷池へ降りる道ではヤマザクラ、ウワミズザクラ、ムラサキシキブ、ヤマコウバシ、クマノミズキ、ヤマウルシ、ゴンズイなど道端の樹木を手に取りながら見る事が出来ました。

長谷池ではカワセミの鮮やかな羽色を確認でき皆さん嬉しそうでした。

池から山田道に登り、イノシシのぬた場やオオカメノキの冬芽を観察、ウサギの国でカラスザンショウ、センダンの冬芽を観察しているとアカゲラを発見。これはラッキーとスタッフも皆さんと一緒に観察しました。

その後は帰りのバスの時間を気にしながらヤドリギ、ハクウンボク、チドリノキと急ぎ足で観察しましたが逆に時間が10分ほど早く終わりそうになり、さくら園で桜から松が生えている珍しい木があるというので寄り道すると桜に鳥の群れが、フィーフィーとウソが桜の芽を食べに集まっていました。

双眼鏡やフィールドスコープでじっくり観察し、ウソ笛といわれる鳴き声もはっきり聞くことが出来ました。解説者から食物連鎖の話や聴き生物多様性、自然保護にも話題が広がりました。

結局予定より10分遅れの3時30分に展示館前に帰り、「鳥合わせ」などまとめを行い3時40分に解散しました。

定例観察会ではおそらく初めての試みとなるテーマに野鳥観察を掲げた今回は、下見段階では数年ぶりで「オオマシコ」が来ており他にも多種の野鳥が確認できていましたが、本番では目玉のオオマシコが現れずお世話をする班のメンバーはビジターさんにかに楽しんで頂こうかと心配をしました。しかし、午後のコースでカワセミ、アカゲラ、ウソなど綺麗な鳥が現れて皆さん喜んで下さりほっと胸をなでおろしました。野鳥は必ず居てくれる保証がないので緊張しましたが諦めずに最後まで重いフィールドスコープを担いで頑張ってくださいました野鳥担当の皆さんに感謝いたします。また、施設使用や資料作成、観察用具の貸し出し等の便宜を図って下さった森林植物園、並びにボランティアガイドに御礼申し上げます。

報告:田丸



